

県内企業景況調査結果

(2023年4～6月期実績、2023年7～9月期見通し)



— 県内景況は、力強く回復している —

(前回) 県内景況は、回復の動きが広がる

- 業況判断D.I.は「好転」超幅が拡大し、5期連続のプラスで**過去最高水準**
来期は「好転」超幅がやや拡大の見通し (4ページ)
- 景況天気は4期連続の「晴れ」。来期も引き続き「晴れ」となる見通し (7ページ)

■主要D.I. (カッコ内は前回調査からの変動幅)

(参考)

	業況判断D.I.	景況天気	売上D.I.	採算水準D.I.	資金繰りD.I.	雇用判断D.I.
当期 実績	26.0 (+5.8)	 晴れ 20.7 (+5.0)	29.3 (+4.3)	24.0 (+4.4)	8.7 (+6.3)	48.8 (▲3.0)
来期 見通し	28.1	 晴れ	31.1	29.0	6.9	47.3

[調査内容についてのお問い合わせ先]

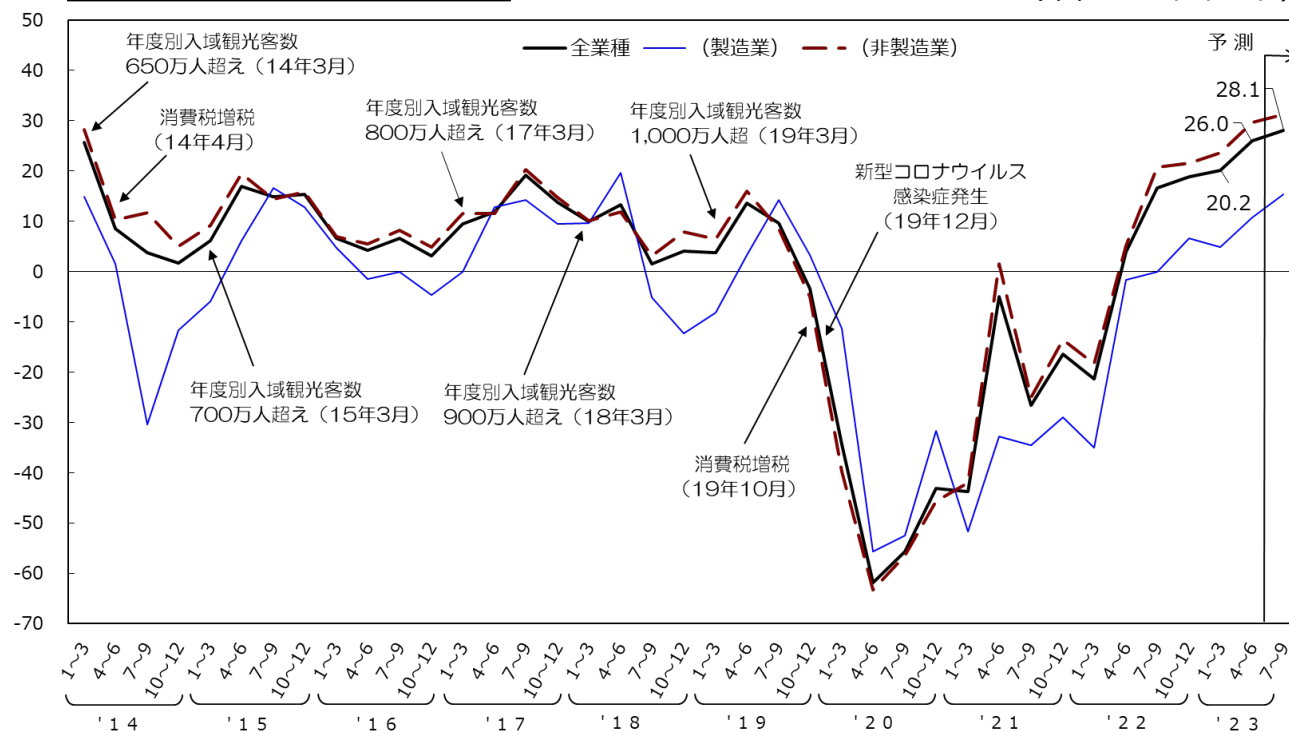
調査部 金融経済調査課 (担当: 新里) 沖縄県那覇市おもろまち1-2-26 電話: 098-941-1725 FAX: 098-941-1920

調査結果の概要 (1)業況判断D.I.

- 23年4~6月期実績の業況判断D.I.は、26.0%ポイント（以下、単位省略）と、前回実績20.2と比べて、+5.8と「好転」超幅が拡大し、**5期連続のプラスで過去最高の水準**となった。
- 引き続き人手不足や原材料高等の影響はあるものの、新型コロナの5類移行やマスク着用ルールの緩和に伴う、人流の回復や観光需要の高まりにより、幅広い業種で力強く回復している。
- 23年7~9月期の見通しは28.1と、「好転」超幅がやや拡大の見通しとなっている。

図表1 業況判断D.I.の推移

(単位：%ポイント)











- **まん延防止等重点措置の終了**
 - ・ 2022年2月
- **水際対策大幅緩和**
 - ・ 2022年10月
- **全国旅行支援の実施**
 - ・ 2022年10月
- **新型コロナの5類感染症への移行**
 - ・ 2023年5月

(2)景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)

- 当期の県内企業の動向を全産業ベースで見ると、資金繰りD.I. (2.4→8.7) で「楽」超幅が拡大、売上D.I. (25.0→29.3) で「増加」超幅がやや拡大、採算水準D.I. (19.6→24.0) で「黒字」超幅がやや拡大となったことから、景況天気 (15.7→20.7) は4期連続の「晴れ」となった。
- 来期の見通しは、採算水準D.I. (29.0) で「黒字」超幅がやや拡大、売上D.I. (31.1) で「増加」超幅がほぼ横這い、資金繰りD.I. (6.9) で「楽」超幅がほぼ横這いとなることから、景況天気 (22.4) は引き続き「晴れ」の見通しとなっている。

図表2 全産業における景況天気図の推移

(単位：%ポイント)

区分	2022年				2023年			
	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 前回実績	4~6月期 前回見通し	7~9月期 今回実績	10~12月期 今回見通し
全産業								
景況天気図	 曇り △11.9	 薄曇り 6.7	 晴れ 16.2	 晴れ 12.1	 晴れ 15.7	 晴れ 18.4	 晴れ 20.7	 晴れ 22.4

図表3 全産業における売上D.I.・採算水準D.I.・資金繰りD.I.の推移

(単位：%ポイント)

区分	2022年				2023年			
	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 前回実績	4~6月期 前回見通し	7~9月期 今回実績	10~12月期 今回見通し
全産業								
売上D.I.	△ 14.4	14.6	28.4	24.5	25.0	(29.2)	29.3	31.1
採算水準D.I.	△ 6.9	8.2	17.3	14.8	19.6	(24.4)	24.0	29.0
資金繰りD.I.	△ 14.4	△ 2.7	3.0	△ 3.0	2.4	(1.5)	8.7	6.9

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

業種	項目	調査対象 企業数 (A)	回答数 (B)	回答率 (%) (B) / (A) × 100
	全産業	375	334	89.1
	製造業	68	65	95.6
	建設業	68	63	92.6
	卸売業	48	41	85.4
	小売業	48	39	81.3
	運輸業	36	32	88.9
	情報通信業	23	21	91.3
	サービス業	46	43	93.5
	飲食店・宿泊業	35	27	77.1

※全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し、自計記入を求める方法による。

5. 調査対象期間

当期：2023年4～6月期実績、来期：2023年7～9月期見通し

6. 調査実施期間

2023年5月下旬～2023年6月下旬

(発送：2023年5月22日、回収基準日：2023年6月9日)

7. 用語説明等

- 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- D.I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD.I.を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

Ⅱ. 調査結果 1. 業況判断

— 当期は「好転」超幅が拡大し、5期連続のプラスで過去最高水準
来期は「好転」超幅がやや拡大の見通し —

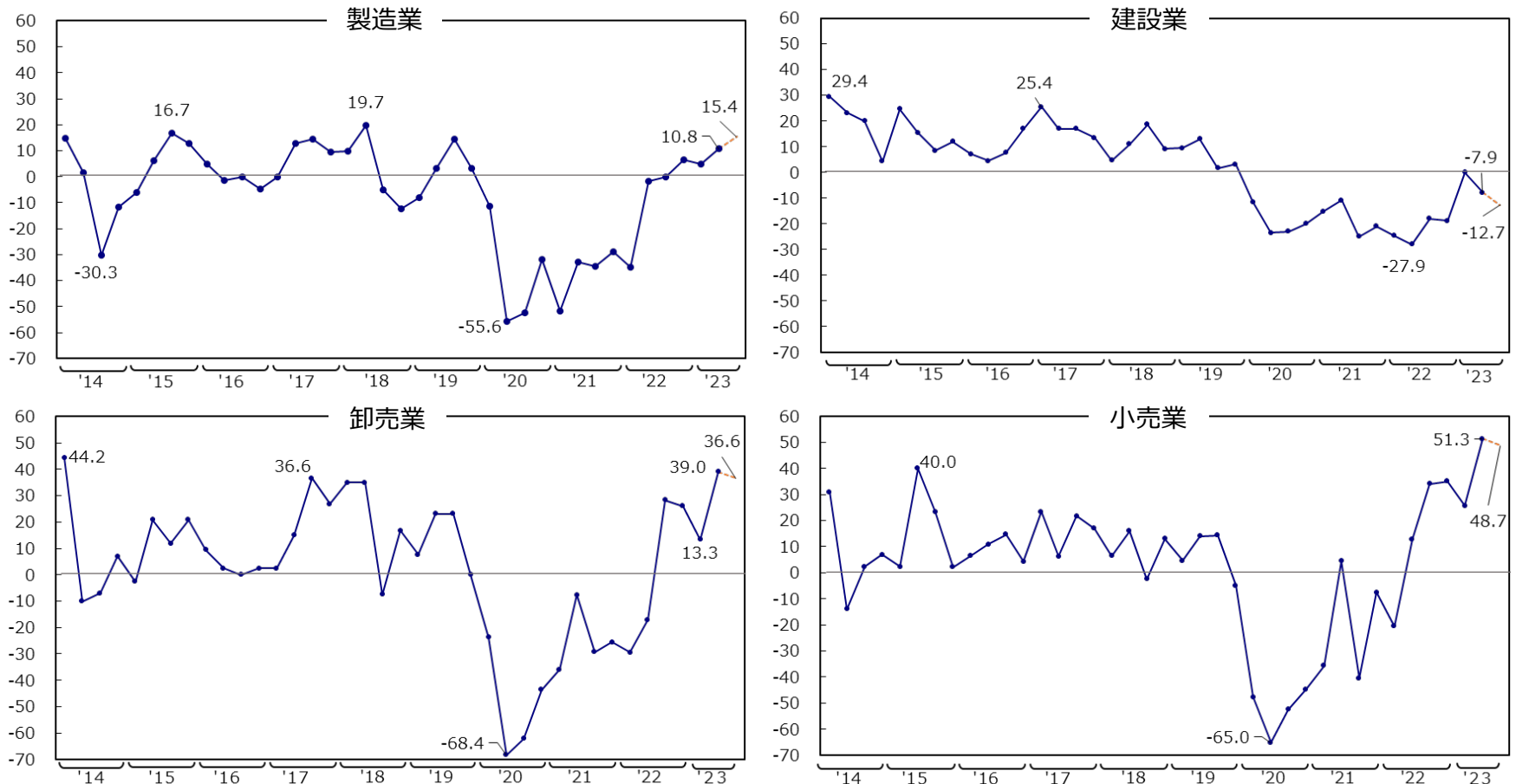
- 当期の業況判断D.I.（全産業）は 26.0と、5期連続のプラスで過去最高水準となった。
- 特に、運輸業（43.8）及びサービス業（37.2）は、調査開始以来過去最高水準、また、小売業（51.3）及び卸売業（39.0）は、過去2番目に高い水準となった。
- その背景には、①新型コロナの5類移行（2023年5月8日～）やマスク着用ルールの緩和に伴い人流が回復し、個人消費が堅調に推移したこと、②全国旅行支援策の継続等により、観光需要が高まったことの2つが挙げられる。
- 来期の業況判断D.I.は 28.1と、「好転」超幅がやや拡大の見通しとなっている。

図表4 業況判断D.I.（前年同期比、「好転」－「悪化」企業割合）（単位：%ポイント）

区分 業種	2022年				2023年			
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I.(①-②)	△ 21.3	4.0	16.7	18.8	20.2	(22.9)	26.0	28.1
① 好転(%)	15.0	29.9	35.5	40.3	39.5	(38.6)	41.6	40.1
不変(%)	48.6	44.2	45.7	38.2	41.3	(45.8)	42.8	47.9
② 悪化(%)	36.3	25.9	18.8	21.5	19.3	(15.7)	15.6	12.0
製造業	△ 35.0	△ 1.7	0.0	6.6	4.9	(4.9)	10.8	15.4
建設業	△ 24.6	△ 27.9	△ 18.0	△ 18.8	0.0	(10.9)	△ 7.9	△ 12.7
卸売業	△ 29.5	△ 17.1	28.3	26.1	13.3	(20.0)	39.0	36.6
小売業	△ 20.5	12.8	34.1	35.0	25.6	(28.2)	51.3	48.7
運輸業	△ 21.9	27.3	32.3	35.5	35.5	(45.2)	43.8	50.0
情報通信業	△ 5.0	△ 9.5	△ 9.5	△ 10.5	4.8	(△4.8)	△ 19.0	4.8
サービス業	△ 16.3	9.8	24.4	33.3	26.8	(26.8)	37.2	44.2
飲食店・宿泊業	0.0	72.4	81.5	74.1	88.9	(74.1)	81.5	74.1

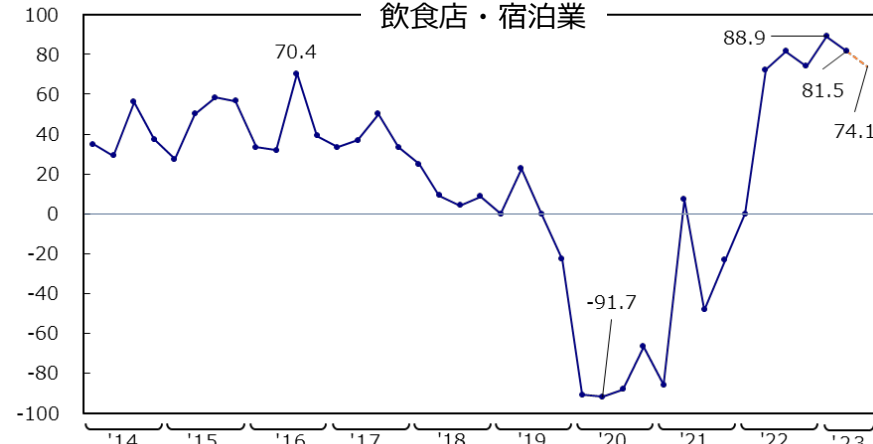
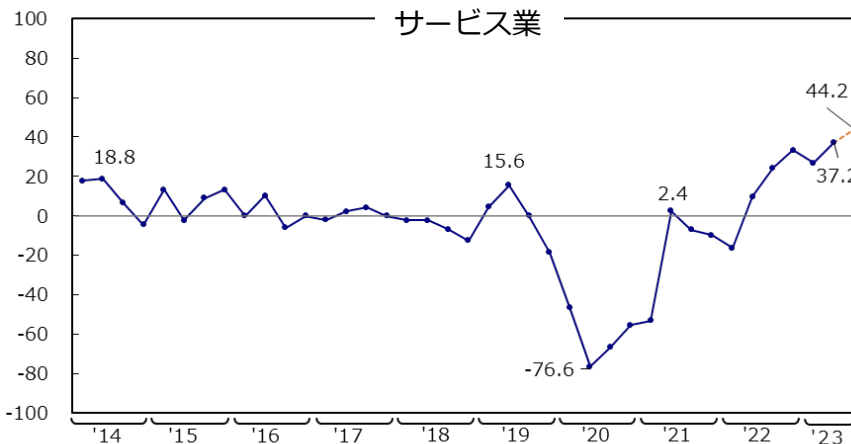
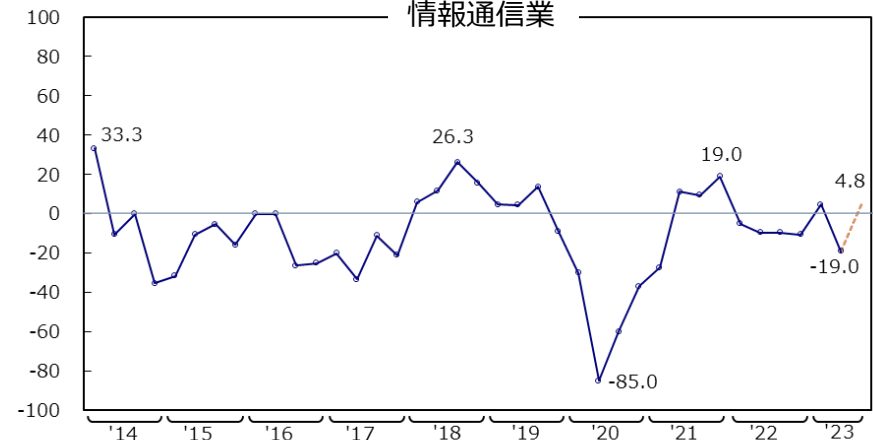
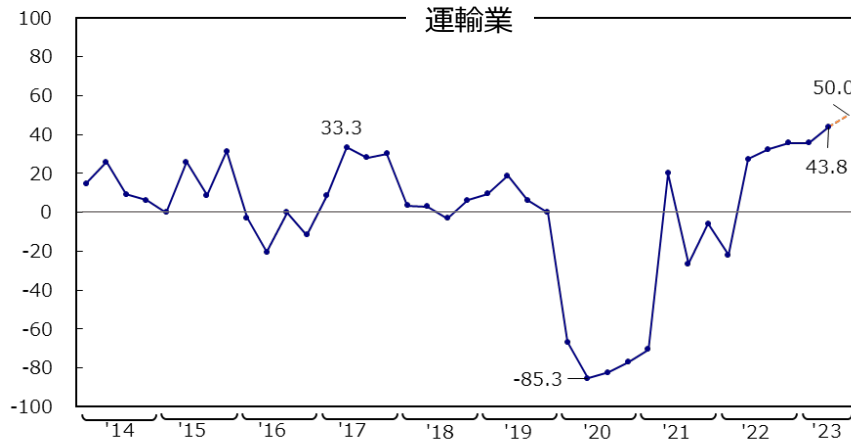
- ・ 製造業の中でも、生コン製造業では販売価格の上昇や、公共工事向けの出荷が増加したことにより、業況の改善がみられた。
- ・ 建設業では、建設資材価格や人件費の高止まりの影響が続いているとの声が聞かれた。
- ・ 卸売業では、ホテルや飲食店向け飲食料品の販売増加に伴い、飲食料品の包装資材の需要も高まり、販売量が増加した。
- ・ 小売業では、外出機会の増加や、前年より降水量が少なかった影響により、アウトドア・レジャー用品の売れ行きが好調だった。

図表5-1 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位：%ポイント、オレンジ点線は見通し)



- 運輸業では、飲食料品や建設資材等の輸送量が増加したことや、運送単価を引き上げた効果により、引き続き好調に推移した。
- 情報通信業(新聞業・放送業含む)では、前年同期が沖縄県の本土復帰50周年の節目に伴う催事広告の反動減で、広告収入が減少した。
- サービス業では、人流の回復やイベント開催の増加に伴い、ビル管理清掃及びホテル客室清掃、警備業務を中心に需要が高まった。
- 飲食店・宿泊業では、家族連れや会社関係等の団体客の会食が増加したことや、旅行支援策の効果により、好調を維持した。

図表5-2 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、オレンジ点線は見通し)



2. 景況天気

— 当期は4期連続の「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し —

- 全産業の景況天気について、当期（20.7）は4期連続の「晴れ」となった。
- 来期についても、全産業の景況天気（22.4）は、引き続き「晴れ」の見通しとなっている。

図表6 景況天気図（売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値）（単位：%ポイント）

業種	区分	2022年				2023年			
		1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期		7~9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業		Δ11.9	6.7	16.2	12.1	15.7	(18.4)	20.7	22.4
製造業		Δ19.4	5.0	12.0	Δ 1.1	8.7	(10.9)	8.2	15.4
建設業		Δ1.1	Δ6.0	Δ 7.1	Δ 10.9	Δ 2.1	(4.7)	2.6	0.5
卸売業		1.5	10.6	24.6	18.8	17.8	(23.7)	28.5	33.3
小売業		Δ17.1	6.8	32.5	36.7	29.9	(31.6)	39.3	39.3
運輸業		Δ26.0	16.2	20.4	16.1	24.7	(19.4)	31.3	30.2
情報通信業		Δ1.7	Δ3.2	Δ 1.6	Δ 10.5	Δ 7.9	(3.2)	Δ 17.5	Δ 11.1
サービス業		Δ16.3	15.4	23.6	23.9	22.8	(22.8)	31.8	31.0
飲食店・宿泊業		Δ20.8	12.6	34.6	39.5	43.2	(40.7)	50.6	48.1

快晴 — 30以上～100以下
 晴 — 10以上～30未満
 薄曇り — Δ5以上～10未満
 曇り — Δ30以上～Δ5未満
 雨 — Δ100以上～Δ30未満

3. 売上

— 当期は「増加」超幅がやや拡大、来期は「増加」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の売上D.I.は、全産業で29.3と「増加」超幅がやや拡大となり、過去2番目に高い水準となった。
- 特に、小売業（64.1）及びサービス業（55.8）では過去最高水準、また、運輸業（46.9）では、過去2番目に高い水準となった。
- 来期は、全産業で31.1と「増加」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表7 売上D.I.（前年同期比、「増加」－「減少」企業割合）

（単位：％ポイント）

区分 業種	2022年				2023年			
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	△ 14.4	14.6	28.4	24.5	25.0	(29.2)	29.3	31.1
① 増加(%)	27.0	43.9	52.2	49.7	51.8	(47.9)	53.3	46.7
不変(%)	31.5	26.8	23.9	25.2	21.4	(33.4)	22.8	37.7
② 減少(%)	41.4	29.3	23.9	25.2	26.8	(18.7)	24.0	15.6
製造業	△ 21.7	20.0	25.0	14.8	23.0	(19.7)	12.3	16.9
建設業	△ 24.6	△ 37.7	△ 27.9	△ 21.9	△ 14.1	(△6.3)	△ 12.7	△ 9.5
卸売業	2.3	7.3	30.4	28.3	17.8	(33.3)	39.0	39.0
小売業	△ 23.1	10.3	41.5	47.5	43.6	(48.7)	64.1	53.8
運輸業	△ 15.6	36.4	51.6	38.7	41.9	(41.9)	46.9	50.0
情報通信業	△ 25.0	4.8	14.3	0.0	△ 14.3	(0.0)	△ 28.6	△ 4.8
サービス業	△ 14.0	36.6	43.9	43.6	41.5	(46.3)	55.8	55.8
飲食店・宿泊業	9.4	79.3	96.3	85.2	88.9	(77.8)	85.2	77.8

4. 採算水準

— 当期は「黒字」超幅がやや拡大、来期は「黒字」超幅がやや拡大の見通し —

- 当期の採算水準D.I.は全産業で24.0と「黒字」超幅がやや拡大となり、情報通信業以外の業種で「黒字」超幅が拡大した。
- 特に、寄与度が高かったのは建設業と運輸業であり、遅延していた工事の完工のタイミングが当期に集中したことや、令和5年4月より、運送単価の引き上げを実施した企業がみられた。
- 来期は、全産業で29.0と「黒字」超幅がやや拡大の見通しとなっている。

図表8 採算水準D.I. (当該期、「黒字」－「赤字」企業割合)

(単位：％ポイント)

区分 業種	2022年				2023年			
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	△ 6.9	8.2	17.3	14.8	19.6	(24.4)	24.0	29.0
① 黒字(%)	29.4	33.5	39.7	37.6	39.5	(38.9)	43.7	44.6
トト(%)	34.2	41.2	37.9	39.7	40.7	(46.7)	36.5	39.8
② 赤字(%)	36.3	25.3	22.4	22.7	19.9	(14.5)	19.8	15.6
製造業	△ 16.7	5.0	18.8	3.3	8.2	(9.8)	10.8	21.5
建設業	23.0	23.0	8.2	△ 1.6	14.1	(23.4)	20.6	12.7
卸売業	13.6	26.8	45.7	39.1	42.2	(42.2)	48.8	63.4
小売業	△ 10.3	7.7	31.7	47.5	33.3	(35.9)	41.0	53.8
運輸業	△ 34.4	15.2	12.9	6.5	19.4	(12.9)	31.3	25.0
情報通信業	35.0	0.0	△ 9.5	△ 15.8	0.0	(9.5)	△ 14.3	△ 28.6
サービス業	△ 20.9	4.9	17.1	23.1	26.8	(29.3)	27.9	32.6
飲食店・宿泊業	△ 56.3	△ 44.8	△ 14.8	3.7	0.0	(25.9)	11.1	37.0

5. 資金繰り

— 当期は「楽」超幅が拡大、来期は「楽」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の資金繰りD.I.は、全産業で8.7と「楽」超幅が拡大となった。
- 特に、飲食店・宿泊業（55.6）では過去最高水準、また、サービス業（11.6）では、過去3番目に高い水準となった。前期に引き続き、旅行支援策の地域共通クーポンの利用がみられたことで、顧客単価の上昇に繋がったとの声が聞かれた。
- 来期は、全産業で6.9と「楽」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表9 資金繰りD.I.（前年同期比、「楽」－「苦しい」企業割合）

（単位：％ポイント）

区分 業種	2022年				2023年			
	1～3月期 実績	4～6月期 実績	7～9月期 実績	10～12月期 実績	1～3月期 前回実績	4～6月期 前回見通し	7～9月期 今回実績	7～9月期 今回見通し
	全産業 D.I. (①—②)	△ 14.4	△ 2.7	3.0	△ 3.0	2.4	(1.5)	8.7
① 楽 (%)	3.3	6.7	13.1	9.4	13.0	(11.7)	17.4	13.2
不変 (%)	79.0	83.8	76.7	78.2	76.5	(78.0)	74.0	80.5
② 苦しい (%)	17.7	9.5	10.1	12.4	10.5	(10.2)	8.7	6.3
製造業	△ 20.0	△ 10.0	△ 7.8	△ 21.3	△ 4.9	(3.3)	1.5	7.7
建設業	△ 1.6	△ 3.3	△ 1.6	△ 9.4	△ 6.3	(△3.1)	0.0	△ 1.6
卸売業	△ 11.4	△ 2.4	△ 2.2	△ 10.9	△ 6.7	(△4.4)	△ 2.4	△ 2.4
小売業	△ 17.9	2.6	24.4	15.0	12.8	(10.3)	12.8	10.3
運輸業	△ 28.1	△ 3.0	△ 3.2	3.2	12.9	(3.2)	15.6	15.6
情報通信業	△ 15.0	△ 14.3	△ 9.5	△ 15.8	△ 9.5	(0.0)	△ 9.5	0.0
サービス業	△ 14.0	4.9	9.8	5.1	0.0	(△7.3)	11.6	4.7
飲食店・宿泊業	△ 15.6	3.4	22.2	29.6	40.7	(18.5)	55.6	29.6

6. 借入難易

— 当期は「容易」超幅がほぼ横這い、来期は「容易」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の民間金融機関からの借入難易D.I.は、全産業で2.7と「容易」超幅がほぼ横這いとなった。
- 来期は、全産業で3.0と「容易」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表10 借入難易D.I. (前年同期比、「容易」－「困難」企業割合)

(単位：%ポイント)

区分 業種	2022年				2023年			
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	△ 3.6	0.3	1.2	0.0	1.8	(0.6)	2.7	3.0
① 容易(%)	3.3	4.9	4.8	4.5	6.0	(5.1)	4.8	4.8
不変(%)	89.8	90.5	91.6	90.9	89.8	(90.4)	93.1	93.4
② 困難(%)	6.9	4.6	3.6	4.5	4.2	(4.5)	2.1	1.8
製造業	△ 3.3	1.7	3.1	△ 1.6	△ 1.6	(△3.3)	△ 1.5	0.0
建設業	△ 1.6	3.3	△ 1.6	1.6	6.3	(3.1)	3.2	3.2
卸売業	4.5	0.0	6.5	6.5	0.0	(0.0)	2.4	0.0
小売業	△ 7.7	0.0	4.9	0.0	5.1	(2.6)	2.6	5.1
運輸業	0.0	6.1	3.2	△ 3.2	0.0	(0.0)	0.0	0.0
情報通信業	0.0	△ 4.8	0.0	5.3	0.0	(0.0)	4.8	△ 4.8
サービス業	△ 7.0	△ 2.4	0.0	△ 2.6	2.4	(2.4)	9.3	14.0
飲食店・宿泊業	△ 15.6	△ 6.9	△ 11.1	△ 7.4	0.0	(0.0)	3.7	3.7

Ⅲ. 参考 販売数量、販売価格

参考1. 販売数量 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は11.0と「増加」超幅が横這いとなった。来期は15.2と「増加」超幅がやや拡大の見通しとなっている。

図表11 販売数量D.I. (前年同期比、「増加」－「減少」企業割合)

(単位：%ポイント)

業種	区分	2022年				2023年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①－②)	△ 26.6	1.4	12.6	10.2	11.0	(14.5)	11.0	15.2
	① 増加(%)	21.7	36.4	41.1	44.2	44.1	(40.0)	41.4	39.3
	不変(%)	30.1	28.6	29.8	21.8	22.8	(34.5)	28.3	36.6
	② 減少(%)	48.3	35.0	28.5	34.0	33.1	(25.5)	30.3	24.1

参考2. 販売価格 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は64.8と「上昇」超幅が大幅に縮小、来期は62.8と「上昇」超幅がやや縮小の見通しとなるものの、依然として、**高い水準で推移する見込み。**

図表12 販売価格D.I. (前年同期比、「上昇」－「下降」企業割合)

(単位：%ポイント)

業種	区分	2022年				2023年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①－②)	39.9	60.0	70.9	67.3	76.6	(72.4)	64.8	62.8
	① 上昇(%)	44.1	60.7	72.8	70.7	79.3	(76.6)	69.0	66.2
	不変(%)	51.7	38.6	24.5	25.9	17.9	(19.3)	26.9	30.3
	② 下降(%)	4.2	0.7	2.0	3.4	2.8	(4.1)	4.1	3.4

在庫水準、雇用判断

参考3. 在庫水準 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期末は△2.1と、前期末と比べて「過剰」超幅が横這いとなった。

図表13 在庫水準D.I. (当該期末の水準、「不足」－「過剰」企業割合) (単位：%ポイント)

業種	区分	2022年				2023年	
		3月期末	6月期末	9月期末	12月期末	3月期末	6月期末
全産業D.I. (①－②)		△ 9.8	△ 2.9	△ 5.3	0.0	△ 2.1	△ 2.1
	① 不足(%)	4.2	6.4	7.3	10.2	6.9	6.9
	適正(%)	81.8	84.3	79.5	79.6	84.1	84.1
	② 過剰(%)	14.0	9.3	12.6	10.2	9.0	9.0

参考4. 雇用判断

- 当期の雇用判断D.I.は、全産業で48.8と「不足」超幅がやや縮小となったものの、依然として高い水準で推移した。
- 来期は、全産業で47.3と「不足」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表14-1 雇用判断D.I. (当該期、「不足」－「過剰」企業割合) (単位：%ポイント)

業種	区分	2022年				2023年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期		7～9月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I (①－②)		28.5	35.1	40.9	47.3	51.8	(49.7)	48.8	47.3
	① 不足(%)	36.0	39.0	43.9	48.8	53.3	(51.2)	50.6	49.4
	適正(%)	56.5	57.0	53.1	49.7	45.2	(47.3)	47.6	48.5
	② 過剰(%)	7.5	4.0	3.0	1.5	1.5	(1.5)	1.8	2.1

経営上の問題点

参考5. 経営上の問題点

- 当面の経営上の問題点としては、5期連続「原材料高」の割合が最も高く、続いて「求人難」、「人件費の増加」の順となった。
- 幅広い業種において、原材料高や人手不足の影響が続くなか、電気料金の値上げに伴い収益圧迫を懸念する声や、給与のベースアップに伴う、人件費の負担増を懸念する声が多くあがった。

図表15-1 経営上の問題点（複数回答）

（単位：％）

